

一進一退のつばぜり合い。今週が正念場

大阪住民投票（11月1日投票）について、21日に行われた会議での大阪府委員会の報告要旨を紹介します。

市民を二分するたたかいに持ち込んだ 住民投票をめぐる様相と論戦、運動の方向

○様相

・現状は一進一退の激しいつばぜり合いが続き、その一端が世論調査にも反映している。維新陣営が「公明党との野合」「市役所ぐるみ」「議員動員など数の力」で目論んだ「大勝」の思惑は許しておらず、逆に新たな矛盾も生まれている。

・「大阪市を廃止するのか、活かすのか」、市民を二分するたたかいに持ち込んでいることは、大阪市民の良識と「よくする会」「明るい会」の奮闘、共同する市民諸団体の努力による。全戸配布、一般紙折り込み、日刊ピラの100カ所宣伝、スーパー・商店街作戦、プール前宣伝など支援の力も得て宣伝と対話で勢いをつけている。各地で市民の宣伝への協力とともに、市民の手作りの反対運動も広がり、生野区では連合町内会長らがハンドマイク宣伝や「ハガキ・ピラ」4万枚の作成・活用を始めている。

○論戦

焦点が浮き彫り①「大阪市の廃止か、それとも130年の歴史を持つ大阪市の存続か」②「権限・財源を奪われた中で住民サービス切り捨てか、大阪市の力を生かした拡充か」③「コロナ禍でなおカジノ、インバウンド頼みを続けるのか、命と福祉、暮らし第一へ転換するのか」という焦点が浮き彫りになりつつある。

選択は「大阪市を廃止するかどうか」住民投票は「大阪都にするかどうか」でなく、「大阪市を廃止するかどうか」の選択であることを徹底する。

未来語れず虚構の宣伝 「広報」で維新は、コロナ禍でカジノ誘致は破たんし、「大阪の成長を止めるな」のスローガンも消え、「未来」を語れなくなっている。

「二重行政の過去に戻すな」とか、「府市一体で成長してきた」など虚構の宣伝を繰り広げている。一つひとつ真実の情報を市民に届け、ともに打ち破っていく。

大阪市を残してこそ 大阪市を残し、大きな財源を市民のために活かしてこそ、「医療・保健所の体制整備」「子ども医療費の窓口負担ゼロ」「20人学級」「介護保険料と国民健康保険料の値下げ」「中小企業支援の予算の倍増

などができることを堂々と押し出していく。

○勝利の展望（組織活動の大半は略）

勝利の展望は、何よりも130年の歴史を持つ大阪市をなくしてはならないという熱い思いと良識にある。そのために市民共同の取り組みとともに、「よくする会」「明るい会」全構成員の総決起で「100万人対話」を成功させ、「まだ決めていない」方、「情報不足で悩んでいる」方、「何となく賛成」という方々すべてに働きかけ、双方向の対話で、「反対」の輪を広げに広げていく。

- ・テレビ討論、公開討論を見て茶の間の話題にする
- ・「100万対話・50万反対確認」突破のためには、いまの3倍のテンポが求められる。そのためにの全党員決起と「10万人の担い手」作戦が決定的になる。

京都府委員長が激励募金渡す 支援さらに強化



渡辺和俊党京都府委員長（右）が21日、大阪府委員会事務所を訪ね、柳利昭委員長に住民投票支援の募金を手渡しました。渡辺氏が「多様な団体の運動も広がっているようですね」と問いかけると、柳委員長は「激しいつばぜり合いです。おかげさまで支援の人もたくさんきていただいています」と応じ、渡辺委員長は「さらに支援を強めます」と力を入れました。

20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 55(202010.21)

反対多数にできる確信

●生野天王寺地区

生野区の連合振興町会の有志のみなさんが「大阪市廃止反対」とはがきを、生野区の全戸にあたる4万枚を複製、配布しています。

集まりで「都構想」が議論になった際、全員が反対だったことから、何かしようと話し合ったことがきっかけです。はがきには、「大阪市がなくなれば二度と元に戻れません」「迷ったら、棄権や白票でなく『反対』と書こう」と記され、「私も反対です」と差出人の住所や氏名が書き込まれるようになっていました。費用はカンパでまかない、手書きの活用をお願い文書を添えて、各町会長に届けられています。

また、宣伝もできるらしいと、共産党にハンドマイクを借りに来られ、桃谷商店街など2か所を練り歩き、各商店へ反対を呼びかけました。宣伝には学会員の会長も参加。24日には反対集会も計画しています。

方々に、党の日刊ピラを配布していると、元公明党市議のお連れ合いの方が通りがかり、山口公明党代表が大阪入りした後だったが、「私は反対や」と声を上げていた。

運動をすすめれば反対多数にできる確信が。それをすすめる立ち上がりはまだ弱いので、支部や党員を訪問して広がりをつくっていく決意です。

冷たく見える人も考えている

●西港浪速地区

オルグのみなさんの力も借りて、早朝のビジネス街での宣伝をしています。なかなか反応はありませんが、プラスターはよく見えています。そこで「反対」を大書きしたのから、「メリットはカジノ業者へ」、「市民にはデメリット」、「プールがなくなる」と一覧にするなど、反対とは書かずに、情報提供型のプラスターで宣伝すると、注目が集まり、5、6人が輪になって群がる場面も。話しかけても何も言いませんが、信号を渡った向こう側でピラを受け取るなど反応に変化がうまれています。反応が冷たく見える人も、めっちゃくちゃ考えていることがわかります。ここが前回と違うところ。賛成の人も、よくよく考えて7~8割がた賛成という人も多い。

街頭で、自分にも話をさせてほしいとマイクを握る青年、事務所に知らない人が来て維新のピラをシュレツダ

ーにかけといてくれという人、宣伝中に周りにも配るからとピラを10枚とか多い人で250枚ほど持って帰ってくれる人も。

担い手を広げることがカギで、「あなたの力が必要です」と担い手を広げるカードを作成して、後援会員、読者を訪問しています。支部もここが勝利のカギとつかみはじめています。自分の支部の力のなさを嘆く声もあるが、街頭でこれだけ声をあげる人がいるのだから、後援会員、読者のなかで力を発揮してくれる人はいると励まし合って活動をすすめています。

目標を本気で追求

●大阪2区地区

連日奈良県からテレデータへの電話かけの結果がドサッと届き、「迷っている」など必要なところへは訪問もしています。非常に励まされ、市内地区の責任を痛感しています。

世論調査に一喜一憂もするが、今週は本当に大事になってくると思います。

これまで地区では目標があいまいでした。対話も反対の確認も目標を明確に本気で追求していきたいです。全党員名簿で活動参加も握っていく。全国各地からオルグが入って、文字通り全国総力あげてのたたかいになっています。人口最大の平野区を抱える地区で負けられません。

支援隊を、電話をもっともっと

つばぜり合いの住民投票に勝ち抜くため、近畿から支援をもっともっと強めましょう。

幹部会第一決議より

「このたたかいは、大阪の自治と民主主義を守り、安倍政治の最大の補完勢力として自己責任。新自由主義を押し付けてきた、日本維新の会の野望を打ち砕くたたかいである。全国大阪への支援と連帯を強めることを訴える」

●ハンドマイク持参で大阪のたたかいにはせ参じよう

●テレデータによる電話かけを急ぎ、今週中にやり上げよう

●親類、知り合いなど結びつきへの働き掛けを